

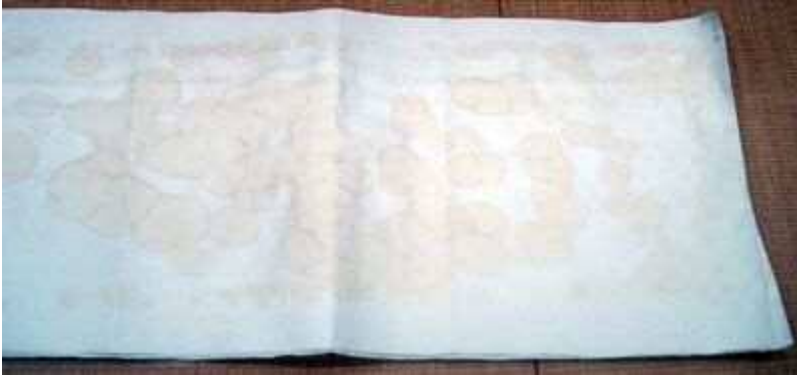
江戸時代の画家、与謝蕪村晩年の名作として名高い《富嶽列松図》は、愛知県美に寄贈された木村定三コレクションの中でも最も知られた作品の一つです。蕪村の代表作として、重要文化財に指定されています。この作品が、今年から修理されています。

《富嶽列松図》は、掛軸としては珍しいほど横長の画面が特徴で、それが鑑賞上も重要なポイントとなっています。しかし、この作品の場合、掛軸として大きく重いことが表具の変形につながってしまい、画面にも影響があらわれ始めてしまいました。画面のあちこちが折れたり、また巻いたり広げたりすることで表面の墨がこすれて取れてきたりしています。

この作品は、県美での展示予定や他館の展覧会への出品希望も多い、大人気の作品です。今後も皆さんに見ていただく機会をできるだけもつためには、このままの状態では作品への負担が大きすぎるという判断から、本格的な修理をすることになったのです。



↑《富嶽列松図》（修理前）。今回の修理は、この形を基本的に保ちながら、保存上の問題を解決するやり方で行われます。



↑修理の経過を一部ご紹介。掛軸を解体した後、絵を吸い取り紙にのせ、手早く水を通して画面をきれいにします。これは使用後の吸い取り紙ですが、これだけの汚れが取れました！

修理には丸2年かかり、修理後も作品が落ち着くまで寝かせておく必要があります。愛知県美の名品を集めた「美の精髓」展にも、残念ながら出品することができません。しばらくの間見ていただくことができませんが、リフレッシュした《富嶽列松図》にお会いいただける日を楽しみにお待ちしております！

(M. Ma)